

# 私立 千葉科学大学

取組名称 学生ひとりひとりの個性を伸ばす就職支援体制の構築

取組担当者 キャリアセンター 部長 宮本 正

## 1. 本学の概要

千葉科学大学は、千葉県銚子市からの要請によって2004(平成16)年4月に設立した大学であり、筑波水郷国定公園に隣接した太平洋を一望する開放的なロケーションに立地している。

本学は教育目標「健康で安全・安心な社会の構築に寄与出来る人材の養成」の下、薬学部と危機管理学部の2学部で構成している。

薬学部は、「薬学に関する深い専門知識と技能を持ち、薬学・医療に対する使命感と倫理観にあふれ、国民の健康な生活の確保に貢献できる薬剤師、研究者、技術者の養成」を教育目標とし、薬学科(6年制)と生命薬科学科(4年制)の2学科を持つ。

危機管理学部は、日本で最初に設置された危機管理を専門とする学部である。「危機管理の素養を身に付け、安全で安心な社会を構築する知識と技能を修得し、健康で平和な社会を実現する人材の養成」を教育目標とし、危機管理システム学科、動物・環境システム学科、医療危機管理学科、航空・輸送安全学科の4学科を持つ。

2009(平成21)年5月1日現在の学生数は、1,611名。

## 2. 本取組の概要

本取組は、新たな就職支援体制の構築を通じた、学生ひとりひとりの個性に応じた満足度の高い進路決定



の実現を目標としている。

本学キャリアセンターは開学2年目の2005(平成17)年4月に開設し、2008(平成20)年3月に1期生388名を、2009(平成21)年3月に2期生461名を社会に送り出した。その間の民間企業の大卒求人倍率は2.14倍という高水準であり、一見すると、学生の売り手市場と言われる環境の中での就職活動であった。しかし、実質的にはバブル経済崩壊以降の企業側の厳選採用が続いており、「採用水準を下げてまでも採用しない」という企業の採用方針は継続されていた。

このため、キャリアセンターでは、就職ガイダンス、業界研究セミナーを実施し、さらに、キャリアセンターの職員を総動員して、全卒業予定者との個人面談を実施した。その場で得られた各学生のデータを生かして、模擬面接、履歴書添削等個別指導を徹底的に行った結果、学生の自覚が喚起され、学生自身の努力が功を奏して、厳しい選考を乗り越えて成果を得た。

薬学部1期生は全国の理系大学中で就職率第1位、危機管理学部2期生は消防官輩出人数全国第4位という実績へと繋がった。(ランキングデータ「大学通信」)

2008(平成20)年9月のリーマンショック以降、学生を取り巻く採用環境は氷河期を迎えている。企業側は新卒採用の必要性を認めながらも、これから生じるかもしれない業績の急激な悪化を懸念し、新卒採用に強くブレーキをかけている。その影響を受けた3期生は非常に厳しい就職活動を強いられている。

本学に限らず、学生の学力も志向も多様化が進んでいる。大企業に固執する学生がいる一方で、出身地での就職を希望するケースも多い。

本学の特徴として、長い間大学がなかった地域に立地しており、「高卒枠はあるが、大卒枠はない」という地元企業や事業所が多い。また、本学は開学時より留学生を積極的に受け入れてきており、留学生数は在籍者の2割に迫っている。

これらの諸事情を踏まえ、これまでの就職支援体制を改善し、初年次からの一貫した就職支援の実現を目標に、6つの取組を基本方針として策定した。

- (1) 全学共通キャリア支援カリキュラムの整備  
(初年次教育、学士力育成)
- (2) 個別面談指導の強化  
(適性検査実施、自己分析、ポートフォリオ)
- (3) 就職関連情報提供システムの開発・運用  
(携帯電話を活用した双方向システム)
- (4) 内定取消し等の学生への支援体制整備  
(緊急時、休日や夜間の対応)
- (5) 地元企業との連携強化  
(企業訪問、交流会、ハローワークとの連携)
- (6) 学内合同企業説明会、企業との情報交換

### 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

本取組の趣旨は、「学生ひとりひとりの個性を伸ばす就職支援体制を構築し、満足度の高い卒業後の進路決定を実現させる」ことである。悪化する採用環境の中、多様化する学生に対して満足度のより高い進路決定を実現することを目的としている。

#### [達成目標]

- (1) 初年次教育として、自己理解や働くことの意義を伝えるキャリア支援科目を適切に運用する。
- (2) 自己分析や適性検査結果を基礎データとして、全学生との個別面談を実施する。
- (3) 多様化する学生の個性に応じた支援を通じて、学生の自己実現を支援する。
- (4) 合同企業説明会開催、企業訪問、採用担当者との情報交換等で、求人企業を開拓する。

### 4. 本取組の具体的内容・実施体制

- (1) 全学共通キャリア支援カリキュラムの整備
  - (i) 危機管理学部の理念である『リスクマネジメント』と学生の『キャリアデザイン』を関連付け、『キャリア・リスクマネジメント・ブック』を作成する。この冊子をフォルダーにセットした『キャリアデザインファイル』を配付する。これに、自己分析・自己評価・適性検査・業界研究等の記録を綴り、学生のポートフォリオとしての活用を図る。
  - (ii) 専門分野との関連性が強い資格『防災士』『危険物取扱者』『登録販売者』等や、社会人としてのマナーや常識獲得の目安となる『秘書技能検定』等に対する対策講座や資格取得試験を学内で開催し、資格取得をサポートする。
  - (iii) 資格取得支援eラーニングシステムを導入・運用

する。公務員試験対策（国家Ⅱ種、地方上級レベル）や約30種類の資格取得を対象とし、使用テキストはシステムのホームページからダウンロード可能な仕様である。

(iv) 留学生をサポートする就職支援講座を開講する。日本国内で就職するために必要な基礎知識（日本語力・日本社会制度）だけにとどまらず、日本独特の考え方やマナー（日本文化）等、留学生が日本で働く上で出会う内容をテーマとする。

#### (2) 個別面談指導の強化

(i) 1・2・3年次生（薬学科は3・4・5年次生）対象に適性検査を実施する。

(ii) 検査結果配付時に解説講座を開講する。検査結果をポートフォリオとして自己管理することも指導する。

(iii) 検査結果を基礎資料として、受検対象学生に対して個人面談・指導をキャリアセンター職員が行う。

#### (3) 就職関連情報提供システムの開発・運用

##### (i) メール配信システム

就職活動に関連する様々な情報（求人情報、会社説明会情報、就職関連イベント情報等）と、学生の属性（所属学科、希望業種・職種・勤務地、年次等）とマッチングし、その情報を必要とする学生を絞り込んだ上で、当該学生にメール配信するシステムである。その情報を必要としない学生に配信し、「スパムメールのようだ」と、クレームもあった点への反省でもある。

##### (ii) 携帯電話を利用する求人検索システム

現在稼働中のパソコン用求人検索システムと連動し、携帯電話からも手軽に求人情報が検索できるよう改良する。

##### (iii) 就職活動記録の活用

卒業生の就職活動報告書を『キャリアチャレンジブック』として編集し、在学生に配付する。また、キャリアセンターのホームページ上にも掲載し、必要な部分を閲覧（ダウンロード）できるよう配慮する。

#### (4) 内定取消等の学生への支援体制整備

##### (i) 不測事態発生時の緊急連絡先

キャリアセンター専用の携帯電話を備え付け、『内定取消し等』の緊急連絡先とする。

##### (ii) 平日夜間、土曜日の窓口対応

キャリアセンターの業務は平日（9時～17時）、週休2日である。職員が不在となる平日夜間や土曜日に人員を加配し、内定取消し等の不測事態発生時の窓口

対応を行う。

(iv) 不測事態発生時のサポート体制

不測事態が発生した際、キャリアセンターは学部教員（就職委員等）と協力して、当該企業に向くなど事情を正確に把握し、再発の防止に努める。一方、当該学生の新たな就職先の開拓・支援を手厚く行う。

(5) 地元企業との連携強化

(i) 企業向けパンフレットの作成

内容は、学部学科の教育内容、就職活動対象年次学生の情報、卒業生の就職状況、キャリアセンターの陣容や役割である。

(ii) 交流会の開催

2010(平成22)年度以降、地元企業との交流会を開催するため、キャリアセンター参与を新たに採用し、地元企業への訪問等の業務を担当させる。

(6) 学内合同企業説明会、企業との情報交換

(i) 学内合同企業説明会

学部の専門性と関連する企業等の採用担当者を一同

に招き、3年次生（薬学科は5年次生）と直接面談する形式で開催する。運営に4年次生（薬学科は6年次生）を参画させ、3年次生～4年次生（5年次生～6年次生）の連続性を持った指導効果を図る。

(ii) 主要都市（東京・大阪・広島・福岡）において企業の採用担当者との名刺・情報交換会を開催する。

(iii) 就職イベント会場への引率

本学の置かれた地理的条件を考慮すると、就職活動（交通費）支援が重要となる。貸切バスを運行し、就職情報企業主催イベントや千葉県内大学合同イベント等に学生を参加させる。キャリアセンター職員、就職委員が同行し学生を指導する。

本取組による新たな支援体制を図1に示す。

5. 本取組の評価体制・評価方法

取組成果は、キャリアセンターと就職委員が協議して取りまとめ、教育研究委員会へ報告する。そこでの議を経て、自己評価委員会並びに大学協議会へ諮る。

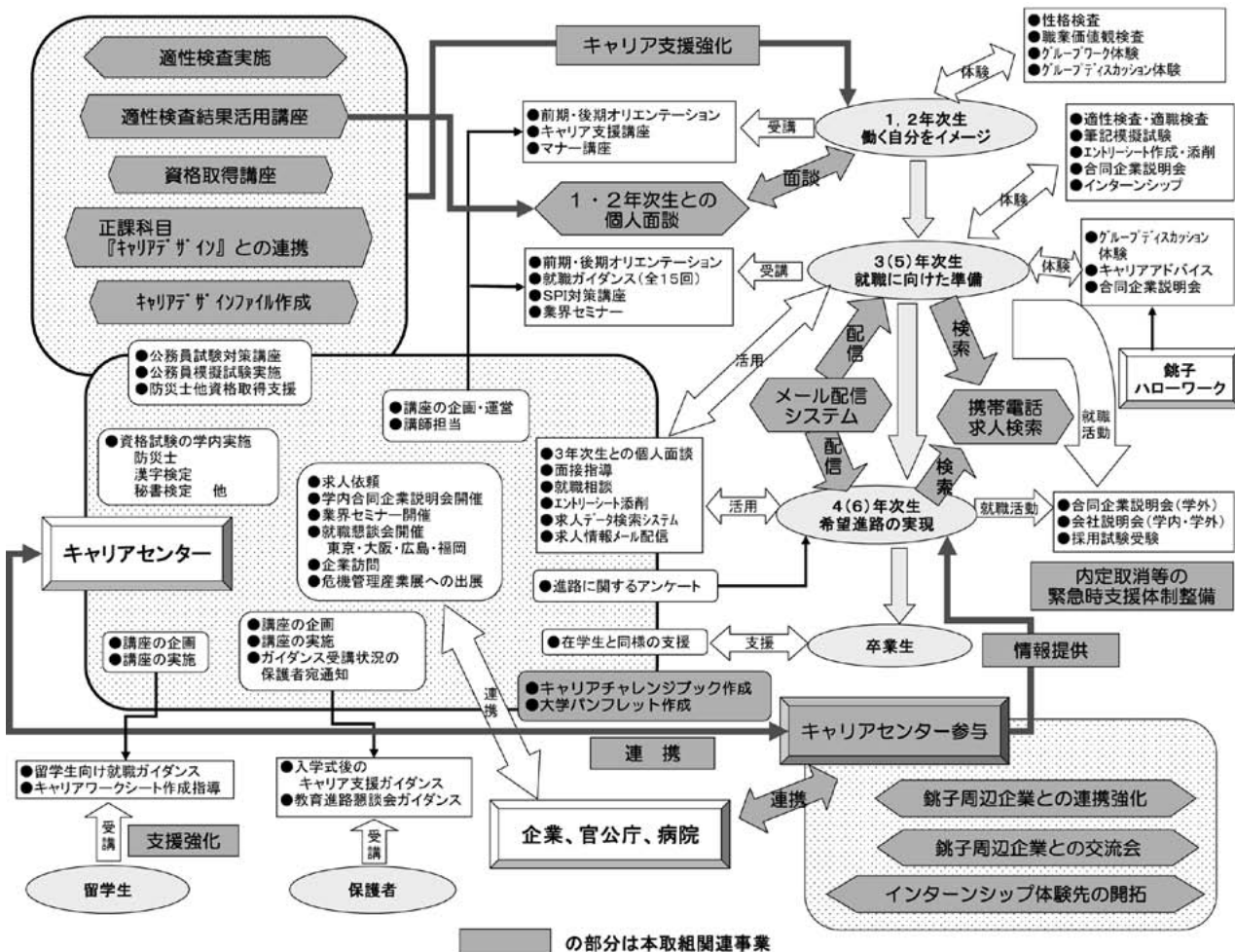


図1 新たな就職支援体制



## 事例 4 ◆ 千葉科学大学

学長は、大学協議会の審議した内容に基づき、教学に関する改善事項は学部長を通じ学部教授会へ、事務管理に関する改善事項は事務局長を通じ事務担当部門へそれぞれ指示する。

### 6. 本取組の実施計画等

2009(平成21)年度の実施計画を以下に示す。なお、特記がない取組は、2010・2011(平成22・23)年度にも継続する。

#### (1) 全学共通キャリア支援カリキュラムの整備

##### (i) 『キャリアデザインファイル』の作成

9月～1月 『キャリアデザイン』担当教員と共同  
作成

1月 学生(1年次生)へ配付・指導

##### (ii) 資格取得支援講座開講

9月～3月 試験対策、資格試験を実施

##### (iii) 資格取得支援eラーニングシステム

9月～3月 システムを運用(周知と利用促進)

##### (iv) 留学生向け就職支援講座の開講

12月～1月 支援講座開講  
東京外国人雇用センターへ引率

#### (2) 個別面談指導の強化

##### (i) 適性検査実施・解説講座開講

10月～12月 1・2年次生(薬学科:3・4年次生)  
対象に適性検査・解説講座

##### (ii) 個人面談の実施

1月～3月 全適性検査受検者との個別面談・指導

#### (3) 就職関連情報提供システムの開発・運用

##### (i) システム開発

9月～1月 開発 → 1月 運用開始

##### (ii) 『キャリアチャレンジブック』作成

9月～11月 作成 → 12月 配付・Web公開

#### (4) 内定取消し等の学生への支援体制整備

##### (i) 携帯電話窓口の開設

9月～3月 開設

##### (ii) 平日夜間および土曜日の学生連絡窓口

10月～3月 開設

##### (iii) 内定取消し等緊急時の対応体制の整備

10月～3月 随時対応

#### (5) 地元企業との連携強化

##### (i) 大学紹介パンフレット作成

9月 作成 → 10月～3月 イベント等で配付

##### (ii) キャリアセンター参与による地元企業訪問

10月～3月 企業訪問 → 在学生への紹介

#### (6) 学内合同企業説明会、企業との情報交換

##### (i) 学内合同企業説明会開催(12月・2月)



写真1 学内合同企業説明会(本学体育館)

##### (ii) 情報交換会開催(10月・11月・3月)



写真2 採用担当者との情報交換会  
(2009(平成21)年11月16日 東京国際フォーラム)

##### (iii) 各種イベントへの引率

10月～2月 貸切バスによる引率

#### [検証と改善]

2009(平成21)年度、緊急を要する内定取消し等の不測事態に対する支援体制の整備、および、キャリアセンター参与による地元企業への訪問を重点的に推進する。後者は、2010(平成22)年度以降に開催する地元企業との交流会を視野に入れた活動である。新規事業『キャリアデザインファイル』、『キャリアチャレンジブック』作成、1・2年次生(薬学科は3・4年次生)対象の適性検査実施・解説講座開講・個人面談実施、就職情報提供システムは運用効果を検証し、次年度以降の改善につなげていく。